

佐田岬 風力発電施設 見学記

近藤 康夫

2007年5月26日(土) 天候 晴 多少黄砂 風速 4~5 m/s

6:30 自宅を車で出発、新居浜インターから高速に入る。石鎚 PA で風強し。内子インターで降り(93 km) 大洲・八幡浜市経由で 9:00 伊方ビジターズハウス・道の駅「きらら館」到着。佐田岬の尾根を走る国道 197 号線は改修前は「行くな国道」と言われた難所であったが、今はメロディラインという見晴らしのよいドライブコース。

伊方町二見地区の町営風力発電所があり、「二見くるりん風の丘パーク」(二見小学校の児童が名付けた)に 850 kW 風車 2 基がまず出迎えてくれた。民家に近過ぎて騒音問題がある。



旧瀬戸町に入ると道の駅「瀬戸農業公園」がある。当初はここに 100 kW 風力発電施設をふるさと創生 1 億円基金で発足させて発電エネルギーで温室栽培を始めたのである。今では風車は撤去されている。「瀬戸ウインド・ヒル」の風車 3~4 基がゆっくりと回転するのが展望できる。「瀬戸風の丘パークまで 6 km」の案内がある。ここは以前に見学済みだから、今回の見学主目的である旧三崎町の先にある「三崎ウインドパワー」へと急いだ。結構な距離があり、九州の佐賀関と別府行きフェリー乗場を過ぎると、道も一段と狭くなり、疲れとやや心細さを感じている頃、目前に風車の列が数基、現れた。

佐田岬灯台に最も近い西の端の新しい進入路から入ると、柑橘畑で作業していた老夫婦に会い、道のことなど尋ねて一安心。工事用に造られたと思われる道路が、以後は保守用、農作業用、観光用に活用出来るように整備され、その道端に 20 基の施設が全て柵もなく開放的になっている。安心してタワーの根元に近づき写真とビデオを撮った。

この辺りの地形は岬の先端に近く、幅 100~200 m 高さ 100m 程度の尾根に、4~5 km に亘ってほぼ一直線に 20 基が点在し、東端の松地区に集電変電所と会社事務所がある。





集電・変電設備



○ 三崎ウインドパワー(株)

愛媛県西宇和郡伊方町松 4262-2 (旧三崎町)

三菱重工業(株)製 N-W186 型 定格出力 1,000 kW

ロータ直径 61.4 m ロータ回転数 19.8 rpm

数量 20 基 最大出力 20,000 kW

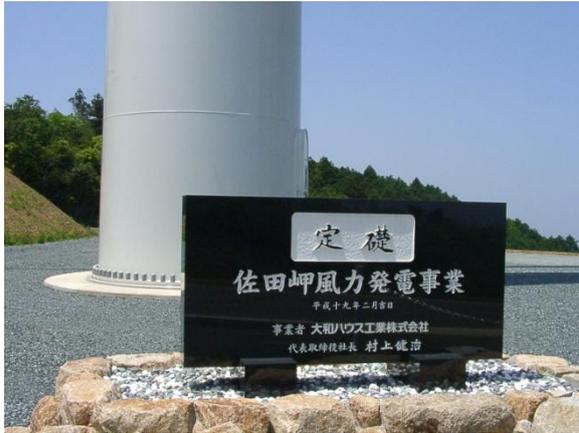
第三セクター(丸紅、四国電力、伊方町) 総工費 約 47 億円

続いて「瀬戸ウインド・ヒル」へと引き返した。ここは 2003 年 10 月に建設された施設で旧瀬戸町と三菱重工業(株)による第三セクターで、三菱重工(株)製 1,000 kW 11 基が設置されていて、「瀬戸風の丘パーク」と呼ばれる見学場所がある。電気学会誌(2003 年 12 月)の表紙にも載った塔にカブト虫のマークの風車と再会した。



その場所から西側には以前は 1 基しかなかったが、今回は風車の列が遠望できる。

大和ハウス工業(株)が「佐田岬風力発電事業」として 1,000 kW 9 基を 2007 年 2 月に事業費約 19 億円で設置したものであり、ほぼ一箇所に一列に並んでいる。



以上で 4 事業所、総計 42 基の風力発電施設を見学した。

新聞報道によると、来年 3 月に完成予定のものが 18 基あり、併せて 60 基の風車が並んで、総出力約 6 万 kW の四国の風力発電基地となる。

年間発電量 1 億 7700 万 kWh 41,800 世帯分と報じられている。

この半島の東に位置して、四国電力(株)伊方原子力発電所があり、原子炉 3 基で約 200 万 kW の電力を常時発生しており、そのエネルギー格差が面白い。

太陽光発電、風力発電など自然エネルギーは希薄であって、その利用には広大な施設を必要とし、気象変動による影響も大きい。

(2007 年 5 月 28 日記)